

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

現在の定時制高校は、多様な背景のある生徒の学び場としての機能を果たしている。この状況を踏まえ、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、豊かな人間性を育むとともに社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）を培う教育に努め、次のような生徒を育てることをめざす。

- ① さまざまな困難に挫けず、自分なりのスタイルやペースで自己実現をめざす生徒。
- ② 周囲への気配りを忘れず、思いやりのある態度を備えている生徒。
- ③ 互いを認め合い、共に生きることの大切さを理解している生徒。
- ④ 毎日の生活リズムを乱さないなど、基本的な生活習慣が備わっている生徒。

2 中期的目標

1. 確かな学力の育成と教育システムの改善・充実

(1) 「分かる」「できる」「楽しい」を実感させる授業をめざす。さらに、社会で必要とされる生きた学力を身につけられるようにする。

ア 授業内容や指導方法、学習教材を工夫し、生徒の基礎学力を定着させる。

イ 観点別学習状況の評価の目的を理解し、指導と評価の一体化の観点から PDCA サイクルによる授業改善に取り組む。

※ 生徒向け学校教育自己診断における授業に関する項目の肯定率を、令和8年度まで80%以上を維持する（R3：72.5%、R4：80.8%、R5：89.2%）。

2. 豊かな人間性を持った生徒の育成と生徒の自己実現の支援

(1) 互いに尊重しあう精神と人権感覚を養う。

ア ホームルーム活動や学校行事、部活動を通じて自主性を高め、協調性を育てる。

イ ホームルームや総合的な探究の時間を活用して人権教育を実施し、人権感覚を養う。

※ 生徒向け学校教育自己診断における人権に関する項目の肯定率を、令和8年度には90%以上をめざす（R3：87.2%、R4：83.1%、R5：83.8%）。

(2) 生徒の課題や背景を把握し、生徒からのサインを的確に捉えて適切に対応を行い、生徒の自己実現を支援する。

ア 家庭との連携を密にし、基本的な生活習慣を確立させる。また、規範意識の向上をめざす。

イ 計画的・系統的なキャリア教育を行い、卒業後の進路についての意識を高める。

※ 生徒向け学校教育自己診断における進路に関する項目の肯定率を、令和8年度には90%以上をめざす（R3：89.7%、R4：92.3%、R5：86.5%）。

(3) 生徒の抱える様々な課題に対し、解決に向けた組織的な支援体制を構築する。

ア 支援委員会を核として、組織的に生徒を支援する。

イ SSW、SC との連携を図り、相談体制を充実させる。

※ 中途退学率を、令和8年度には8.0%以下を目標とする（R3：13.9%、R4：3.2%、R5：7.7%）。

3. 学校運営体制の改善・充実と地域につながる学校づくりの推進

(1) 組織体制の改善・充実を図り、機能的な学校運営に努める。

ア 校内研修の実施やOJTにより、教職員の資質を向上させる。

イ 教員一人ひとりの業務負担を考え、学校運営組織の強化及び効率化を図る。

※ 教職員向け学校教育自己診断における校務運営に関する項目の肯定率を、令和8年度まで85%以上を維持する（R3：80.0%、R4：82.5%、R5：87.5%）。

(2) 安全で安心な学校づくりを推進する。

ア 定時制の現状に即した防災教育の実践を行う。

イ 個人情報管理のルールを明確にし、適正な管理を行う。

※ 生徒向け学校教育自己診断における防災に関する項目の肯定率を、令和8年度まで90%以上を維持する（R3：84.4%、R4：90.8%、R5：91.9%）。

(3) 保護者や中学校、地域等に、教育目標や教育活動について情報提供を行い、地域とつながる学校づくりを推進する。

ア 学校ホームページ等を活用し、幅広く積極的な情報提供を行う。

イ 保護者や中学校、地域等との相互理解・相互協力による良好な連携体制の構築を図る。

※ 保護者向け学校教育自己診断における情報提供に関する項目の肯定率を、令和8年度まで90%以上を維持する（R3：88.9%、R4：90.3%、R5：93.8%）。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和6年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『学校の先生は、生徒の話を聞いてくれる機会がよくある。』の肯定率が91.4%と昨年度より3.6%上昇した。教員一人ひとりが生徒とのコミュニケーションを大切にしているためであると考えられる。 ・『授業はわかりやすい。』の肯定率が84.3%と昨年度より7.6%減少した。教員の授業力向上を含め、授業内容の見直しや教科書の選定なども改めて検討が必要である。 ・『先生はいじめや私たちが困っていることなどについて、真剣に対応してくれる。』の肯定率が91.4%と昨年度より3.2%減少した。生徒間でのトラブル等を対応する体制の見直しや教員一人ひとりの対応力の向上が必要である。 ・『生徒の意見を反映し、充実した生徒会活動が行われていると思う。』の肯定率が81.4%と昨年度より3.7%減少した。生徒会活動の見直しや生徒の意見を反映する仕組みの強化が必要である。 ・『本校の部活動は、参加している生徒が充実した活動を行えていると思う。』の肯定率が85.7%と昨年度より6.0%上昇した。合同チームでの大会参加や外部指導の活用などが影響していると考えられる。 	<p>第1回 令和6年7月4日（木）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今年度の重要事項について(授業力向上、行事の精選、生活に関わる指導、キャリア教育、KTプログラムの策定、会議の精選、情報公開)について説明。 ・中退そのものが悪いことではない。中退が社会の切れ目にならないように引き続き支援を行ってほしい。 ・通う生徒の背景を理解しながら一人ひとり遅刻する理由がそれぞれである。個別の事情を分析しながら指導してほしい。 ・差別やいじめについて、相談ルートを生徒に示してほしい。 ・学校経営計画に生徒の意見を反映する機会を設けてほしい。 ・教育目標について、策定に生徒が関わる機会を設けてほしい。 <p>第2回 令和6年11月21日（木）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業見学の後、意見交流を行った。 ・数年ぶりの授業見学であったが、良いように学校の雰囲気が変わってきていると感じた。 ・多様な生徒がいるからこそ、安心して自己開示している様子が見られた。 ・電子黒板等デジタル機器の活用が進んでいる。AI等も含めて継続して研究してほしい。 ・外国語の学習について、会話を積極的に取り入れてほしい。 ・遅刻指導について、交通手段等による影響など詳しく分析してほしい。

府立春日丘高等学校 定時制の課程

<p>・『学校で、交通ルールや交通マナーについて学ぶ機会がある。』の肯定率が97.1%と昨年より1.2%上昇した。今後は実践的な教育の導入なども検討し、継続的な交通安全教育を実施していく。</p> <p>・『先生は学校で事件や地震、火災などが起こった場合、どう行動したらよいかを教えてくれている。』の肯定率が85.7%と昨年度より6.2%減少した。前期での防災訓練が雨天のため、予定していた実践教育を実施することができなかった影響と考える。</p> <p>【保護者】</p> <p>・『先生は子どもを理解している。』の肯定率が92.3%と昨年度より16.5%上昇した。教員一人ひとりが生徒とのコミュニケーションを大切にしているためであると考え。</p> <p>・『学校は、教育方針をわかりやすく伝えている。』の肯定率が94.7%と昨年度より7.2%上昇した。HPやブログの活用により、保護者への情報提供が強化できている。</p> <p>・『学校の生徒指導の方針に共感できる。』の肯定率が94.8%と昨年度より6.9%上昇した。保護者との密な連絡が影響していると考え。今後も継続的な指導方針の見直しが必要である。</p> <p>・『学校は、保護者が授業を参画する機会を設けている。』の肯定率が100%と昨年度より12.5%上昇した。今年度は昨年度より授業参観の機会を増やしたことが影響している。</p>	<p>第3回 令和7年2月6日(木)</p> <p>○令和6年度学校経営計画の自己評価(案)や学校教育自己診断結果(3年間の推移含む)、授業アンケート結果、令和7年度学校経営計画の中期的目標(案)について協議。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員のICTへの負担が心配。特定の教員への負担があるのではないか。専門スタッフの導入などサポート体制の充実が必要と感じる。 ・令和6年度KTプログラムの策定について、他校でも活用できるプログラムだと感じる。一般化したプログラムとするためにも他校と連携しながら作成するのはよいのではないかと。 ・補足資料について、丁寧にまとめられていてよい。今後も継続してほしい。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成と教育システムの改善・充実	<p>(1)「分かる」「できる」「楽しい」を実感させる授業をめざす。</p> <p>ア 授業内容や指導方法、学習教材を工夫し、生徒の基礎学力を定着させる。</p> <p>イ 観点別学習状況の評価の目的を理解し、指導と評価の一体化の観点からPDCAサイクルによる授業改善に取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・分かりやすい授業をめざし、ICTの活用を図り、授業方法を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時に「ねらい」や目標を伝えたり、授業の終わりに振り返りを行ったりするなどの工夫をすることで、授業を集中して受ける姿勢を養う。 ・相互授業見学、公開研究授業、研修等を通じて、授業力の向上を図る。 ・ICTの活用やグループ学習を取り入れるなど、生徒が能動的に参加する授業展開を行う。 <p>イ・各教科の観点別学習状況の評価についてPDCAを繰り返すことにより指導と評価の一体化と授業改善を推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教職員向け及び生徒向け学校教育自己診断結果における1人1台端末の活用に関する質問での肯定率80%以上を維持する。[85.0%、89.2%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートにおける「授業に集中して取り組んでいる」3.5P以上を維持する。[3.6P] ・授業見学週間を2回実施する。[2回] ・授業アンケートにおける「授業に満足している」3.5P以上を維持する。[3.6P] <p>イ・教員向け学校教育自己診断結果における授業改善に関する質問での肯定率80%以上を維持する。[95.0%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教員：79.0% 生徒：94.3% (○)</p> <p>教員について、目標未達成となった要因としては、今年度に新たに活用の領域が広がった部分が少ないことと考えられる。しかし、すべての教員が授業やアンケートなどで端末を活用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3.59p (○) 授業の中でグループワークを積極的に取り入れるなどの活動が効果的に働いた。 ・2回実施 (○) 10月と1月に実施し、初任者やインターミディエイト研修対象者、10年研修対象者の研究授業をこの時期に実施。 ・3.50p (○) グループ学習や情報収集にICT機器を積極的に活用した。 イ・96.4% (○) 授業アンケートの結果をもとに各個人や教科で観点別学習状況の評価の分析を実施。
2 育成と生徒の自己実現の支援	<p>(1)互いに尊重しあう精神と人権感覚を養う。</p> <p>ア ホームルーム活動や学校行事、部活動を通じて自主性を高め、協調性を育てる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・部活動体験等の取組みを通し、部活動への参加を促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に生徒の意見を反映させ、生徒の積極的な参加を促す。 	<p>(1)</p> <p>ア・部活動参加率50%以上を維持する。[52.7%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断結果における行事に関する質問での肯定率85%以上。[体育祭85.1%、文化祭79.7%] 	<p>(1)</p> <p>ア・55.4% (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育祭90.0%、文化祭88.5% (◎) 生徒の意見を尊重し、体育祭ではクラスを2つに分け、男女の人数バランスの調整を行い実施。文化祭は昨年と同じく2日間の実施をした。

府立春日丘高等学校 定時制の課程

	<p>イ ホームルームや総合的な探究の時間を活用して人権教育を実施し、人権感覚を養う。</p> <p>(2) 生徒の自己実現の支援</p> <p>ア 家庭との連携を密にし、基本的な生活習慣を確立させる。また、規範意識の向上をめざす。</p> <p>イ 計画的・系統的なキャリア教育を行い、卒業後の進路についての意識を高める。</p> <p>(3) 組織的な支援体制を構築する。</p> <p>ア 組織的に生徒を支援する。</p> <p>イ SSW、SC、外部機関等との連携を図り、生徒支援体制を充実させる。</p>	<p>イ・外部機関とも連携し、4年間を意識した計画的な人権教育を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・差別やいじめ等の未然防止に努める。 <p>(2)</p> <p>ア・基本的な生活習慣を確立するために、挨拶の習慣づけ、遅刻早退時における家庭との連携、休暇等の過ごし方の指導などを徹底する。</p> <p>イ・計画的・系統的なキャリア教育を行うため、4年間のアクションプランを示した「春定プラン」を活用し、進路指導の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労支援に関する外部資源との連携強化を図る。 <p>(3)</p> <p>ア・支援委員会を核とし、組織的に生徒を支援する。スクリーニングシートの活用等、生徒の実態に応じた支援を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に積極的に関わり、家庭連絡を密にすることや、中学校や関係機関等との連携により中退を減少させる。また、中退後の見通しが立たない生徒数を0とする。 <p>イ・SSW、SCの活用意義、相談事例などを教職員全体で共有することで連携や活用をより効果的に進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSW・SC通信を活用し、生徒・保護者への情報発信や教職員の理解を深める。 ・令和5年度の「自殺予防に関わる共同研究」の成果を生かし、学年を中心とした集団づくりや、茨木市市民活動センターと協働することで、生徒の自己肯定感、自己効力感を高めるプログラム(KTプログラム(仮))を確立する。 	<p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における人権に関する質問での肯定率85%以上。[83.8%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・教職員向け学校教育自己診断結果における生徒指導に関する質問での肯定率70%以上を維持する。[70.0%]</p> <p>イ・生徒向け及び保護者向け学校教育自己診断結果における進路に関する質問での肯定率85%以上を維持する。[86.5%、93.8%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部資源を活用したセミナーを複数回実施する[5回] <p>(3)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における相談に関する質問での肯定率85%を維持する。[90.5%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中退率10%未満にする。[7.7%] 中退後の見通しが立たない生徒数を0とする。[0人] <p>イ・SSWが参加するケース会議を年間15回以上実施する。[16回]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSWやSCが参加する支援会議を年間10回実施する。[12回] ・SSW・SC通信を年3回発行する。[3回] ・生徒向け学校教育自己診断における生徒の自他を尊重する考えに関する項目で肯定率75%以上[新規] ・KTプログラム(仮)の策定。[新規] 	<p>イ・90.0% (○)</p> <p>いじめアンケートを3回実施し、外部講師を招いた人権講演会を11月に実施。</p> <p>(2)</p> <p>ア・94.7% (◎)</p> <p>生徒指導に関するマニュアルを見直し、教員がマニュアルを理解し活用している。</p> <p>イ・生徒：90.0%、保護者：92.3% (◎)</p> <p>「春定プラン(教員用)」を活用し、計画的なキャリア教育を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5回 (○) ①6/4 進路体験を聞く会(3・4年) ②6/18 進路ガイダンス(3・4年) ③7/17 ジョブドラフト(2・3年) ④12/16 就職指導(3年) ⑤12/18 「卒業後に困ったら」(4年) <p>(3)</p> <p>ア・90.0% (○)</p> <p>支援委員会を中心に、組織的に生徒の支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中退率14.8% (△) 年度末での原級留置生徒の退学が多かったため。 中退後の見通しが立たない生徒数1人(△) 登校実績の全くない生徒で、今後について話し合う機会を持つことができなかった。 <p>イ・ケース会議：27回実施(◎)</p> <p>面談前にケース会議を開いたことで情報整理ができ、面談をスムーズに実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援会議：10回実施。(○) 各学年の生徒情報の共有を行い、支援の方向性の共通理解が得られた。 ・SSWおよびSC通信：2回発行(△) 生徒・保護者へ、SSWやSCについての情報発信ができた。 ・94.3% (◎) 昨年度の取り組みの効果を感している。 ・策定できず(△) KTプログラムの策定に際し、多くの教育活動との関連を整理する必要性を実感した。今後も継続して策定をめざす。
つながる学校づくり	<p>3 学校運営体制の改善・充実と地域との連携</p> <p>(1) 組織体制の改善・充実を図り、機能的な学校運営に努める。</p> <p>ア 教職員の資質を向上させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教職員の資質向上に向け、校外研修の伝達講習や校内での勉強会などを実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・職員会議後のミニ研修を年間6回以上実施する。[6回]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・12回実施(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 教員の協働の在り方について(SSW) ▶ 不登校の理解と具体的な対応について(SC) ▶ ICTに関する研修(学情委員会) ▶ 緊急時対応訓練(保健部) ▶ エピペン®の使い方に関する研修(保健部)

府立春日丘高等学校 定時制の課程

<p>イ 学校運営組織の強化と効率化。</p> <p>(2) 安全で安心な学校づくりを推進する。</p> <p>ア 定時制の現状に即した防災教育の実践を行う。</p> <p>イ 個人情報管理のルールを明確にし、適正な管理を行う。</p> <p>(3) 地域とつながる学校づくりを推進する。</p> <p>ア 積極的な情報提供を行う。</p> <p>イ 相互理解・相互協力による良好な連携体制の構築を図る。</p>	<p>イ・「働き方改革」を学校全体で推進させるため、教職員一人ひとりの意識を改革し、時間外在校等時間の縮小を図る。</p> <p>・令和6年度当初に改編した校務分掌の業務内容を精査し、一人ひとりの業務の平準化、効率化を図る。</p> <p>・運営委員会を中心とした学校運営体制を強化し、意見交換の活性化を図る。分掌・学年などで振り返りや総括を行い、学校としての系統的な取り組みを明確にして PDCA サイクルを確立する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・防災訓練を年2回行うとともに、様々な活動を通して生徒や教職員が防災意識を高める取り組みを行う。</p> <p>イ・教員一人ひとりが個人情報の取扱いに対する意識を高めるとともに、セキュリティポリシー等に定められたルールを厳守し、個人情報の保護、管理を徹底する。</p> <p>(3)</p> <p>ア・学校ホームページによる情報発信を積極的に行う。</p> <p>イ・中高連絡会を開催することや、地域の中学校区や茨木市教育委員会が主催する行事に参加することで、出身中学校等との連携をさらに強化する。</p> <p>・学校教育自己診断や行事でのアンケートなどで保護者の思いや期待を収集し、学校との協力体制の推進に活用する。</p>	<p>イ・時間外在校等時間が月45時間以上の数、年間延べ18人以下を維持する。[0人]</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断における校内人事や校務分掌に関する肯定率65%以上。[55.0%]</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断結果における校務運営に関する質問での肯定率85%以上。[87.5%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における防災に関する質問での肯定率85%以上を維持する。[91.9%]</p> <p>イ・個人情報管理に関する職員研修の実施1回[新規]</p> <p>(3)</p> <p>ア・教職員向け及び保護者向け学校教育自己診断におけるホームページ活用に関する質問での肯定率75%以上。[75.0%、93.8%]</p> <p>ブログ機能を活用し、部活動や学校行事等を紹介する。80回以上更新する。[50回更新]</p> <p>イ・教職員向け学校教育自己診断における校種間連携に関する項目で肯定率80%以上を維持。[80%]</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断結果における「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」の肯定率80%以上。[62.5%]</p>	<p>▶ 人権研修（人推委） など</p> <p>イ・4人(◎)</p> <p>一斉定時退庁日などの取組みは浸透している。</p> <p>・73.7% (○)</p> <p>業務の見直しを行うとともに、教職員とのコミュニケーションを大切にし、意欲的に業務に取り組める環境づくりをめざした。</p> <p>・89.5% (○)</p> <p>職員連絡会やClassroomを活用した校務運営が浸透している。</p> <p>(2)</p> <p>ア・85.7% (○)</p> <p>防災訓練を火災による避難訓練（5月）、地震・停電・火災による避難訓練（1月）の2回実施。</p> <p>イ・2回(○)</p> <p>研修に加えて、各考査前にセルフチェックシートを行い、常に個人情報の取扱いに関する意識を高める働きかけを実施。</p> <p>(3)</p> <p>ア・教職員：84.2%、保護者：94.9% (○)</p> <p>更新回数：80回(○)</p> <p>宿泊行事や文化祭前の準備の様子などを詳細に伝えるためにブログを活用した。</p> <p>イ・79.0% (△)</p> <p>▶ 中高連絡会：2回実施（4月と10月）</p> <p>▶ 中学校での合同説明会に参加（7月）</p> <p>▶ 中学校教員向け説明会を実施（8月と10月）</p> <p>今後は、さまざまな連携内容を教職員と共有する機会をしっかりと持つ。</p> <p>・74.3% (△)</p> <p>各行事への観覧に加え、授業参観を2回は実施できた。その際に保護者からのご意見を聞くことはできた。</p>
--	--	--	--